



2018年9月12日

報道関係者各位

慶應義塾大学先端生命科学研究所

慶應義塾大学先端生命科学研究所

修士課程学生の研究成果が国際学会で表彰

慶應義塾大学先端生命科学研究所（山形県鶴岡市、富田勝 所長）で研究活動を進めている大学院政策・メディア研究科修士課程1年の岩井碩慶（いわい・ひろのり）君は、アリの生態に関する研究を行い、その研究成果を7月23-27日に開催された国際学会“9th Congress of International Society of Hymenopterists”にて発表し、Student Poster Presentation Awardを受賞、表彰されました。

“9th Congress of International Society of Hymenopterists”は、4年に一度の頻度で開催されるハチ目（アリも含まれる）をメインテーマにした国際学会で、ハチやアリの分類や生態に関わる様々な研究が発表されました。本学会で授与されたStudent Poster Presentation Awardは、最も優れたポスター発表を行った学生に対して贈られるもので、岩井君は修士課程1年生ながら、国内外の博士課程学生を押さえ、本賞を受賞しました。

本研究は、他種のアリの巣を乗っ取るといった寄生戦略を持つ“トゲアリ”の生態解明を目指したものです。岩井君は、行動観察や質量分析法、遺伝子発現量解析といった様々な実験手法を通して、トゲアリが巣を乗っ取る際に侵入先のアリに対して行う“馬乗り行動”の寄生戦略上における役割と、その仕組みの一端を明らかにしました。本研究により、トゲアリは馬乗り行動を行うことで、侵入先のアリが持つ敵味方の識別機構を欺いている可能性が、初めて示唆されました。

岩井君は受賞に際し「国際学会という舞台でこのような賞を頂くことができ、大変嬉しく思います。本研究を進めるにあたって、先端生命科学研究所が持つ優れた実験設備や教育体制、そして山形県鶴岡市の豊かな自然環境は必要不可欠でした。このような環境で研究活動を行えたことが、今回の受賞に繋がったのだと思います。」とコメントしています。

富田所長は受賞に際し「他種のアリの巣をまるごと乗っ取るという“トゲアリ”のギャング的行動とその遺伝子の働きを解明した画期的な研究です。先端生命科学研究所では、ベンチャービジネスを目指した応用研究だけでなく、純粋な好奇心による基礎研究もとても重要視しており、受賞した岩井君の研究は面白い基礎研究の代表例です。」とコメントしています。

本発表資料のお問い合わせ先

慶應義塾大学先端生命科学研究所 渉外担当 塩澤、佐藤(涼)

TEL 0235-29-0802 FAX 0235-29-0809 Email pr@iab.keio.ac.jp

<http://www.iab.keio.ac.jp/>